

東日薬会報

発行所 北海道石狩郡当別町金沢1757番地
北海道医療大学薬学部同窓会
印刷所 (株)関西廣濟堂

☎ (01132) 3-0301 直通・FAX 編集人 浜上 尚也
☎ (01332) 3-1211 大学代表 発行人 山崎 信彦
札幌市白石区菊水二条1 ☎ (011) 842-5510



東日薬懇親会 (東京)

目次

総会案内	2
田邊恒義先生の思い出	山崎 信彦 3
退任にあたって	岡本 正敏 3
就任にあたって	齋藤 秀哉 4
東日薬懇親会in市ヶ谷(東京)	多田 正人 4
昨今の薬剤師就職の状況	清水 裕三 5
新入会員名簿・薬学部教員名簿	6
協賛広告	7
編集後記	10

第18回東日薬総会（医療薬学セミナー）開催のご案内

第18回東日薬総会を下記の通り開催いたします。さらに、本年も医療薬学セミナーをあわせて開催することとなりました。会員の皆様の多数のご参加よろしくお願いいたします。

記

日 時：平成9年6月14日（土）

札幌支部総会：17:00～17:30

東日薬総会：17:30～18:00

講演会（医療薬学セミナー）：18:00～20:00

「糖尿病と合併症」

北海道医療大学医療科学センター長

井出 肇 教授

懇親会：20:00～

会費 3000円（当日申し受けます）

場 所：きょうさいサロン

札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル

電話 (011)241-2661

なお、準備の都合上、返信用ハガキにてご出席の有無を5月31日までにお知らせください。総会欠席の方は委任状の記入もあわせてお願いいたします。

また、この講演会（研修会）は日本薬剤師研修センター認定対象研修会（1単位）です。

「田邊恒義先生の思い出」

東日薬会長
山崎 信彦 (2期)

北海道医療大学名誉教授 田邊恒義先生は平成8年12月16日に宮の森記念病院で85歳の生涯を閉じられました。

田邊恒義先生の突然のご逝去に接し深い悲しみを感じております。田邊先生は昭和50年北海道大学を退官し、昭和50年4月より東日本学園大学(現北海道医療大学)薬学部薬理学教室の教授に就任され、昭和60年3月まで研究者として教育者としての長い経験を生かされ、新設大学の設立と学生の教育にご尽力をつくされました。

私、山崎が田邊先生に初めてお会いしたのは3年生の薬理学の講義でした。有機化学を中心とした講義とは違った、興味深さがあったことを覚えています。先生の講義は長い経験と学生に対する愛情にみちた講義であったことを思い出します。私もそんな田邊先生の姿を見て4年生の教室配属の時には迷わず、薬理学教室を選びました。先生は最初の歓迎会を始め花見会、野球大会、海水浴、キャンプ、スキー、忘年会など、年中行事にいつでも快く参加してくれました。また、私も研究において助手の先生のお手伝いを始め卒業実験など年中忙しく、しかしとても楽しく過ごしたことを覚えています。そんな中で、私の思い出は常に田邊先生の研究者としてのたゆまぬ努力と教え子に対しての愛情に満ちた姿でありました。私たち北海道医療大学薬学部同窓生はそんな田邊先生の姿を忘れることはないことと思います。その後、田邊先生の薬理学への教育・研究の意志と情熱は北大医学部時代の教え子である現・本学薬学部薬理学教室南勝教授、臨床薬理毒理学教室齋藤秀哉教授に受け継がれています。これからの学生にも田邊先生の教育・研究者としての志を受け継ぐ事ができることと思います。ここに田邊恒義先生のご生前のお姿を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

「退任にあたって」



岡本 正敏

学校法人東日本学園北海道医療大学の創設に関与して以来、20数年の歳月が流れ、3月31日に定年退職致しました。

想えば、生化学教室の設計、文部省視察官の音別校舎の立合いなど、大学の「生まれ出づる悩み」を、直接的・間接的に見て参りました。

今春の薬学部20期生の巣立ちを眺め、大学そのものが立派な成人になったような気が致しました。私自身にとりましても、幸福な歳月だったと思っております。

この20年間で、医療の世界も良い意味でも、悪い意味でも変貌しております。

殊に、薬剤師の立場は、薬事法の改正もあって、社会的責任も重くなって来たようです。

一期生の頃より、病室で患者さんに薬の説明をしたり、看護婦にまかせている内容のチェックなどを薬剤師がするようにならなければ、本当の意味での患者さんと接する医療の現場での薬剤師とは言えないと講義の中で問題点を指摘して来ました。

現在では、900点業務など、薬剤師の仕事の量は増えていると思いますが、やはり大事なことと思います。

毎年の試験問題の最後に、「将来、貴方はどのような薬剤師になるつもりですか」「院外処方箋に抗癌剤が処方されている場合に、患者さんの質問に貴方はどのように答えますか」などの設問を作りました。

恐らく現在の卒業生は、立派な薬剤師として、毎日の患者さんの悩みに、ひとりの薬剤師として、自分も悩みながら親切に答えていることと思います。

患者さん一人ひとりの年齢も病状も性格も異なります。恐らく一生かかっても、完全という答えはなく、毎日の患者さんとの一期一会の中で格闘することと思います。これこそプロとしての覚悟だと思っております。

このためには、職業人としての縦の仲間だけでなく、別の職業や趣味の仲間も沢山作って下さい。人と人との間で活躍して下さい。

私も医療人のひとりとして、社会のためにわずかでもお役に立ちたいと考えております。

「老いては子に従へ」と言われております。これからは、私が卒業生の皆様に教えていただくこととなります。なにとぞ今後とも相変らずのご指導と厚誼をお願い申し上げます。

定年は余生にあらず福寿草 正敏

就任にあたって



北海道医療大学
薬学部臨床薬理毒理学教室
教授 齋藤 秀哉

このたび北海道医療大学薬学部の臨床薬理毒理学講座を担当することになりました。今年は本学部の開設23年目にあたります。また、本学では昨年には大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程を増設し、大学院の教育と研究を充実させてきました。この講座も薬学部の一教室として発展し充実させていかなければならないと考えております。私は微力ではありますが、教育と研究に専念して立派な伝統を築いていきたいと思っております。同窓生の皆様には、温かいご支援を下さいますようお願いいたします。

ご承知の通り、大学には教育、研究および管理運営の仕事があります。これらが、いずれも円滑に且つ順調に発展する必要があります。臨床薬理学の教育については、将来薬剤師になる薬学部の学生諸君に「合理的薬物療法はどうあるべきか」を講義したいと考えております。毒理学の教育では、薬物ならびに化学物質による有害反応と、それら有害反応の発現機序について学習してもらう予定です。

研究については、薬理学講座の南 勝教授のご支援をいただきながら、教室員が協力して、これまで当講座が進めてきました研究を一步でも前進させたいと思っております。

管理運営の面では、微力ながら本学の発展に寄与できるならば幸いであると考えております。

北海道は暗くて長い冬があります。この長い冬をじっと耐えて雪どけになると露のとうが一気に芽生えるように、私も冬になると毎年、落ち着いて静かに思索して実験をしました。長い冬が去り春が来ると、私共の学会の季節でした。これが毎年の私のリズムであった様に思います。本学に来て、同じ様なリズムで研究をしていきたいと考えております。

大学から見える石狩平野は、まだ早春の景色であります。美しい残雪がいたるところにのこり、大変すばらしい北国の春をみせてくれます。さらに学園都市線から見える石狩川は、水量も豊富で雄大であり、さすがに北海道を代表する河川であると感銘をうけます。また、当別町に立ち寄り、当別神社の周辺を散歩すると開拓時代を偲ぶことができます。

当別町を切り拓いた時と同様に、多くの人達と協力して、この講座を発展させていきたいと念願しております。重ねて、薬学部同窓生の皆様のご支援をお願いいたします。

『東日薬懇親会 in市ヶ谷 (東京)』

東日薬副会長
多田 正人 (4期)

東日薬の同窓会懇親会が、桜が咲き出した東京(グランドヒル市ヶ谷)において、3月25日に開催されました。本来であれば、会長の山崎が本部代表で出席する予定だったのですが仕事の都合により出席できないため、私が代行として出席いたしました。

今回の懇親会は、第117回日本薬学会(3月26日~28日)の東京開催にあわせて開催することで、地方からの学会参加者、関東在住の同窓生、大学の教員の方などが参加しやすいのではと企画されました。また、開催にあたっては関東地区幹事代表の岩田氏はじめ関東地区幹事や大学幹事の方々のご協力をいただきましたことをこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

懇親会は1期卒から19期卒までの同窓生と大学教員合わせて120名の参加があり大盛会となりました。(表紙写真)大学の教員の方々からは、大学の近況などのお話もありましたし、会場内では、同期、先輩後輩、教室の同門などいたるところで話の輪ができていたようです。私自身も先生方、同期、先輩、後輩など知った顔を見つけては仕事や大学時代の話をしたり、会場に來れなかった人の近況を聞いているうちに、あっという間に時間がたってしまい続きは2次会でということになりました。今回、初めての試みとして学会開催時に懇親会を開催しましたが、今後もこのような形式で少しでも多くの同窓生の皆様が、同窓会に感心を持ってもらえるよう、また皆様の意見を聞く場としても活用できるように努力していきたいと思っております。

東日薬の会員も1~2年後には3,000名を越え本部だけでは、全体の統括が難しくなると思われまます。これからは会報、名簿の発行などにより会員の皆様への情報提供をするとともに、支部の設立と活性化をはかりながら東日薬を運営していかなければならないと考えております。また、財政面では会員の皆様から会報、名簿の広告掲載などによるご協力をお願いできればと思います。

今後も本部、支部主催の講演会、懇親会、大学と共催の医療薬学セミナーに是非とも参加されることをお願いいたします。

最後に、お忙しい中懇親会に参加していただいた教員の皆様にお礼申し上げます。

昨今の薬剤師就職の状況

～薬剤師はなぜ不足しているのか～

北海道医療大学 学務部
就職課長 清水 裕三

近年の薬剤師就職状況は地域別に格差が生じており、不足している地域については異常な事態に陥っている。

但し、薬剤師を必要とする雇用側から見れば薬剤師の不足は死活問題にもなりかねない状況であるにも関わらず、国（厚生省）は薬剤師の増加を懸念し、医療担当者としての薬剤師の役割が高まっていることを踏まえ、量的な拡大よりも質的な充実を望んでいる。

なぜ社会において薬剤師不足が地域的に生じているのか。国（厚生省）が望んでいることに対し、私たちが執るべき道は何なのか。この両者について考察してみたい。

厚生省が発表した「平成6年薬剤師数の概要」を基本として薬剤師の種目別での人数割合によると、薬剤師の全体が17万6,871人と、前回平成4年の調査に比較し9.2%増加している。この調査結果については、本学薬学部OBの皆様はご存知の通り、2年に1回調査するものであり、本人が自主的に届け出るシステムになっているので、薬剤師が急に増加したことはない。

職種別に見ると「病院や診療所での調剤の従事者」が約25%、次いで「薬局の勤務者」約23%、「医薬品企業での営業や研究等の従事者」は約15%である。

特筆すべきは、上記職種のほかに「無職」が約8%と、未就業者がいることである。

約8%の「無職」の方々を人数に換算すると、約14,150人となるが、この数値が前述した最近の薬剤師不足と国（厚生省）の望みに大きく関わっていることが推察される。

本学宛の薬剤師求人数は平成8年度実績総数で約1,200名、この内北海道内の求人数は約750名である。この求人数を基に、全国での薬剤師の求人数を地域別人口比率により算出すると、地域的な格差はあるものの全国で約10,000名以上の薬剤師が必要となる状況が推測される。その結果、毎年の薬剤師国家試験合格者は約9,000名な

ので合格者全員が薬剤師として就職しても当該年度については単純に1,000名以上もの求人が充足されない勘定になる。更に地域別格差について北海道と東京都周辺を比較した場合、人口比率が1:4であるのに比較し、薬学系学生数比率が1:10となっていることも不足している地域へ拍車を掛ける状況になっている。

しかし、前記した全国薬剤師の約8%、いわゆる「無職」の未就業者の内約半数が薬剤師の業務に就いた場合、薬剤師不足は一変には行かないまでも相当数が解消されるものと思われるが、このことについては、あくまでも数値上での仮定として述べるに留めたい。

現在の医療環境を取り巻く状況を参考として薬剤師の今後を推測してみると、医薬分業は追い風が吹いている状況下だが、患者サイドから遊離すると医療費の高騰を理由に一変してその風が止んでしまうおそれがある。そして、病院薬剤師においては患者への貢献度の評価によってはその職能環境が厳しくなり、製薬企業のMRでは資格性が確立されることにより活動評価がかなり変化するであろう。

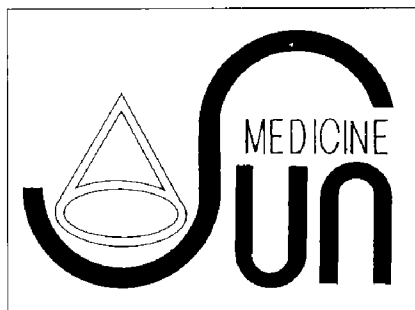
厳しい就職戦線の中にあって、薬剤師の就職のみが順風満帆の状況はすでに終焉を迎えようとしている状況を踏まえ、社会のニーズはより高いレベルでの薬剤師雇用に照準を合わせている。

本学では教育理念の基、全学を挙げてより資質の高い学生の育成に努めている。

そして、本学就職課ではこのことを念頭に、同窓会の皆様・本学教員との協力関係をより強固な絆として保つべく就職活動に鋭意努力する所存です。

同窓会の皆様のご清祥を祈念いたしませうとともに本学就職課へのご高配を賜るようお願い申し上げます。

青森県



有限会社サン・ショウ

サン調剤薬局

代表 第一期生 三 上 章

■ハツ橋店 (本店)

〒030 青森市大字筒井字ハツ橋1382-16
TEL0177 (28) 3200 FAX0177 (28) 2552

■桂木店

〒030 青森市桂木町4丁目6-35
TEL0177 (34) 7890 FAX0177 (34) 7891

■八重田店

〒030 青森市大字八重田字鶴見11-37
TEL0177 (26) 3377 FAX0177 (26) 3387

■ベイブリッジ店

〒038 青森市沖館4丁目8-20
TEL0177 (82) 8855 FAX0177 (82) 8866

■虹ヶ丘店

〒030 青森市虹ヶ丘1丁目3-15
TEL0177 (44) 5511 FAX0177 (44) 5512

■富野町店

〒036 弘前市富野町9-1
TEL0172 (37) 6677 FAX0172 (37) 7747

■安原店

〒036 弘前市安原2丁目1-36
TEL0172 (87) 6666 FAX0172 (87) 6667

■名川薬局

〒039-05 三戸郡名川町大字平字虚空蔵40-3
TEL0178 (76) 1010 FAX0178 (76) 1004

小社に勤務している薬剤師です。

東日本学園大学卒業 (現北海道医療大学)

石井 恵子	第17期生	平成5年度卒
保村 尚利	第16期生	平成4年度卒
青木 一朗	第15期生	平成3年度卒
木村 里美	第15期生	平成3年度卒
青木 真由美	第14期生	平成2年度卒
川元 裕史	第5期生	昭和56年度卒
三浦 潤介	第3期生	昭和54年度卒
野呂 さえ子	第3期生	昭和54年度卒
三上 志津子	第1期生	昭和52年度卒
三上 章	第1期生	昭和52年度卒



医薬分業を掲げて急成長する調剤界の旗手

日本調剤株式会社

〒060 札幌市中央区北4条西5丁目1 アスティ45ビル10F
TEL(011)205-6000

代表取締役 三津原 博

高橋 静司 (1期)	奥山 純子 (10期)	岡田 光司 (14期)	山崎 信彦 (2期)
秋元 美樹 (10期)	五福 博 (15期)	中原久美子 (2期)	小笠原美幸 (11期)
小原さおり (15期)	高木安紀子 (3期)	神田 一仁 (11期)	小島多加志 (15期)
数坂 桂子 (6期)	大坪 匡志 (13期)	片井 喜恵 (16期)	佐藤 宏幸 (7期)
徳谷 智美 (13期)	荒木 一浩 (17期)	下坪 晃 (8期)	西田 純子 (13期)
竹澤 千尋 (17期)	荒木 清孝 (8期)	中島 香苗 (14期)	小林 麻美 (18期)
山下 雅史 (9期)	相馬 宗徳 (14期)		

保険調剤・一般医薬品・介護用品・衛生材料



(株)太誠堂薬局

本社 小樽市塩谷2丁目17番地12号

☎ (0134) 26-3451

支店 札幌 白石店/山鼻店/稲穂店

小樽 奥沢店/住ノ江店/花園店

情報化調剤をめざして実践する



保険調剤

株式会社 ドラッグ・サンジョウ

ナカゾマ薬局

代表取締役 中島久司

本社/☎080 帯広市西7条南7丁目2番地6 ☎(0155)25-7389
札幌本部/☎001 札幌市北区北14条西4丁目11の11 ☎(011)737-4138
帯広本部/☎080 帯広市西7条南7丁目2番地6 ☎(0155)25-7389

創業17年 医薬分業のさきがけ

(株) 中央薬局 薬剤師募集中

本店 旭川市4条通11丁目右10号 TEL (0166) 22-2108

代表取締役社長 堀籠 昌之 (薬剤師)

畑中 勝(3期) 塚野 弘美(6期) 星場 悟(11期) 今泉 茂子(12期) 近藤ゆかり(13期)

北海道北随一の店舗で健康社会に奉仕

中央薬局本店	豊岡中央薬局	大雪中央薬局	かむい中央薬局	永山中央薬局
みずほ中央薬局	本町中央薬局	東旭川中央薬局	永山南中央薬局	二条中央薬局
十字街中央薬局	新富中央薬局	東光中央薬局	神居西中央薬局	

札幌証券取引所上場
医薬品総合卸 IBMコンピュータ販売



ホシ伊藤株式会社

代表取締役会長 伊藤 太郎

代表取締役社長 伊藤 寛志

本社 札幌市中央区南8条西14丁目3番15号 電話(561)-6111

医療法人
東札幌病院

院長 石谷 邦彦

- 診療科目/内科、消化器科、外科、循環器科、肛門科
- その他/人間ドック、健康診断
緩和ケア病棟
- 診療時間/平日：午前9時～午後5時
土曜：午前9時～正午
(日曜・祝日一休診)

〒003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号(南郷通り)
TEL011-812-2311(代表) FAX011-823-9552

「編集後記」

大学周辺の山々にもやっと新緑の季節がやって来ました。

3月には薬学部第20期生109名が卒業いたしました。4月には新生を迎え、キャンパス内にもぎやかになってきました。今年3月に実施された薬剤師国家試験では我が大学の現役受験生の合格率は全国1位という輝かしい成績でした。これから全国で活躍されることを期待いたします。同窓生の皆様もご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

今年度も総会が6月に、セミナーおよび公開講座が各地で開催されます。どうぞ奮ってご参加ください。

大学内の様子も少しずつ変わっております。会員の方から各教室の教員組織について、教えていただきたいとの要望もあり、今回は学内の記事を中心に会報を編集いたしました。同窓会やセミナーに関するご意見や会報への原稿などがございましたらお寄せください。

おわりになりましたが、ご多忙中にもかかわらずご寄稿いただきました諸氏にお礼申し上げます。

浜上 尚也 (9期)

原稿募集

東日薬会報編集部では会員の方々からの投稿を期待しております。

随筆、紀行、文芸、学術、提言および大学への注文など2000字程度でお願いします。

写真原稿も大歓迎、カラーでもかまいませんが白黒の方が印刷の都合上より鮮明になります。ピント良好のものをお送りください。

「伝言板」、「支部、クラス会だより」

クラス会、支部会の開催通知、尋ね人などというような身近な問題、話題などのコーナーを設けました。会員の皆様にフルに活用して頂きたいと思っております。

さらに、支部会、クラス会などの集会がありましたら、是非その記事をお送り下さい。到着順にすべて会報に掲載いたします。

本文は2000字程度まで、写真や寄せ書きだけでも結構です。

原稿は、市販の四百字詰用原稿用紙に手書きでもワープロ(20×20)でもかまいません。

なお、掲載した原稿は原則としてお返ししません。また、内容によっては返却する場合がありますが、採否は編集委員会で決定させていただきます。

このような場合には、 ぜひご連絡を

1. 同窓会会員の結婚

式の日時、会場(所在地の住所)をお知らせください。

東日薬より会場宛に「祝電」を打たせて頂きます。

なお、会員同志の結婚の場合には連名でお願いします。

2. 同窓会会員の死亡

死亡日時、死亡原因、葬儀の日時、喪主、会場(所在地の住所)をお知らせください。

東日薬より会場宛に「弔電」を打たせて頂きます。

上記各項をご連絡の場合、当事者の卒業期、氏名、住所はお忘れなく。また、友人、知人の会員で各項に該当する場合にもご連絡願いますれば幸いです。

〈連絡方法〉

ハガキまたは封書でお願いします。

2(死亡)の場合には電話でも結構です。

〈連絡先〉 〒061-02

北海道石狩郡当別町金沢1757

北海道医療大学薬学部内

東日薬 事務局

TEL (01332) 3-1211 (代表)

FAX (01332) 3-1669 (学内共通)

TEL/FAX (01332) 3-0301 (同窓会室)